

雲林寺（猫寺）

雲林寺は 400 年以上前から臨済宗の寺院であったが、現在では「猫寺」として広く知られている。かつては、萩への藩庁移転を主導した毛利家の当主・毛利輝元（1553-1625）を祀った天樹院の末院であった。輝元の家臣・長井元房（?-1625 年）は、1625 年の主君の死後に殉死した。元房の飼い猫は、主人の死による悲しみのあまり自分の舌を噛み切って死んでしまったと言われている。

雲林寺と元房の猫との歴史的なつながりは薄いですが、本堂には、猫をテーマにした美術品、雑誌や新聞の切り抜きなど、猫をテーマにした膨大な数の品々が展示されている。境内の至る所で見られる木製の猫の作品の多くは、山口を拠点に活動するチェーンソー作家の林隆雄氏の作品だ。また、日本のアニメや漫画の有名なイラストレーターからも猫をテーマにした作品が寄贈されている。

雲林寺には、猫をモチーフにした猫絵馬やお守り、漫画「招福堂縁起絵巻」、ユーモラスな猫のイラストが描かれた法華経などがある。角田慈成住職は「猫を題材にした物語や資料を使って、参拝者に仏様の知恵を伝えたい」と話す。亡くなったペットの供養など、故人の苦しみを和らげるための法要を毎日行っている。

雲林寺は「猫寺」として国内外で人気を博し、世界中から観光客が訪れる。また、近くの集落から発見された 800 体以上の地蔵菩薩像が安置されている。

2020 年に始まった Covid-19 のパンデミックの際には、病気を追い払うといわれる神話上の生き物「アマビエ」のネコバージョンの彫刻を林隆雄氏が寄贈している。

住所：山口県萩市大字吉部上 2489

電話番号：08388-6-0307

営業時間：午前 9 時から午後 5 時（毎日）

入場料は無料だが、寄付を受け付けている。

アクセス：

バス：萩バスセンターから房総バス 吉部(きべ)・津和野行き「吉部バス停」より徒歩 30 分

車：県道 11 号線、県道 13 号線を津和野方面へ 30 分

Google マップのリンクは[こちら](#)

Facebook: <https://www.facebook.com/neco.dera/>